

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年三月度 入選句（投稿総数千三百六十三句・一般投句数五百七十五句）

特選

朝刊に挟まれてゐる寒さかな

大垣市

鶴田 信子

今年地球温暖化のせいか、寒暖の差が大きく季節がずれたかと思はせる今日この頃である。寒さを上手く捕え寒さが朝刊に挟まれてゐるとは面白い表言である。久し振りに良い感覚に出会った佳句。

子らの絵のどれにもお日さま建国日

大垣市

町野 眞佐子

子供、大人に拘わらず絵を描せてみれば、その人間性はもとよりその時の心底が解ると言われてゐる。この句には子供の明るさが、お日さまに表現され読者が明るくなり季語に「建国の日」を入れ重みを付けて句を一層良くした。

日のあたる小さな梅のひかりかな

大垣市

澤井 国造

折角庭に梅の木があつても家が混んで来て日当りが悪くなり梅の木に日が当るのは寸価に値する思ひである。小さいながら梅の花が咲いたその一輪に朝日が当り小さな梅花が光つたその感動が佳句になった。

秀逸

伊吹山大きく晴れて卒業す

大垣市

村田 通夫

登校の列の乱るる氷柱かな

安八郡神戸町

後藤 和朗

梅匂ふまで乳母車押し出しぬ

三重県鈴鹿市

松井 政典

待つ人もなき街へ出る春ショール

大垣市

岡田 あや子

咲き満ちて臘梅空へ香を放つ

大垣市

棚橋 みさを

白玉の椿畏し大社

不破郡垂井町

西垣 和志

うららかや水辺を夫と一万歩

安八郡神戸町

澤崎 和子

琴の音の流れる店や雛飾り

大垣市

高木 治子

息つめて口紅さすや初鏡

北海道小樽市

大橋 美彌

添え書きの余白に見ゆる辛夷かな

静岡県磐田市

田村 文男

入選

窓あけて沈丁の香をまとひけり  
 豆撒けば写楽眼をむく陣屋かな  
 ひそやかに咲いて人恋ふ寒椿  
 遠山を写して静か田水張る  
 雪形の崩れ始めし山仰ぐ  
 一つづつ仏具を磨く彼岸かな  
 山寺や春の余いんの鐘がなる  
 華やかに脇本陣の吊るし雛  
 伊吹みて暮らす一年春立ちぬ  
 ふらここや四温の風にあそばせて

愛知県名古屋市 館野 茂子  
 大垣市 大西 誠一  
 大垣市 松岡 正  
 安八郡神戸町 安田 廣子  
 愛知県瀬戸市 田村 清美  
 大垣市 川瀬 スマ子  
 不破郡垂井町 高木 紫雲  
 大垣市 森川 きよ子  
 大垣市 下村 常子  
 静岡県静岡市 内藤 知

入選

結びの地行く春惜しむ芭蕉祭  
 三羽来て囀のまた新たななり  
 女子会や雀さええずる春の昼  
 ひとつずつ光あつめて猫柳  
 雪の富士窓にはめたる旅の宿  
 風光るブロンズ像の長き足  
 どこからも見ゆる伊吹や梅日和  
 水温む波紋広げて鯉の群  
 上棟の槌音高く寒明くる

大垣市 伊藤 八重  
 養老郡養老町 田中 紫香  
 大垣市 谷 睦月  
 福井県福井市 三ツ山 ひろし  
 不破郡垂井町 藤塚 淑女  
 愛知県名古屋市 河村 恵光  
 大垣市 日比野 友子  
 大垣市 久保田 悟義  
 愛知県名古屋市 岩田 勇

選者吟

古池を覗けば己が顔に蝌蚪

伊藤 百雲